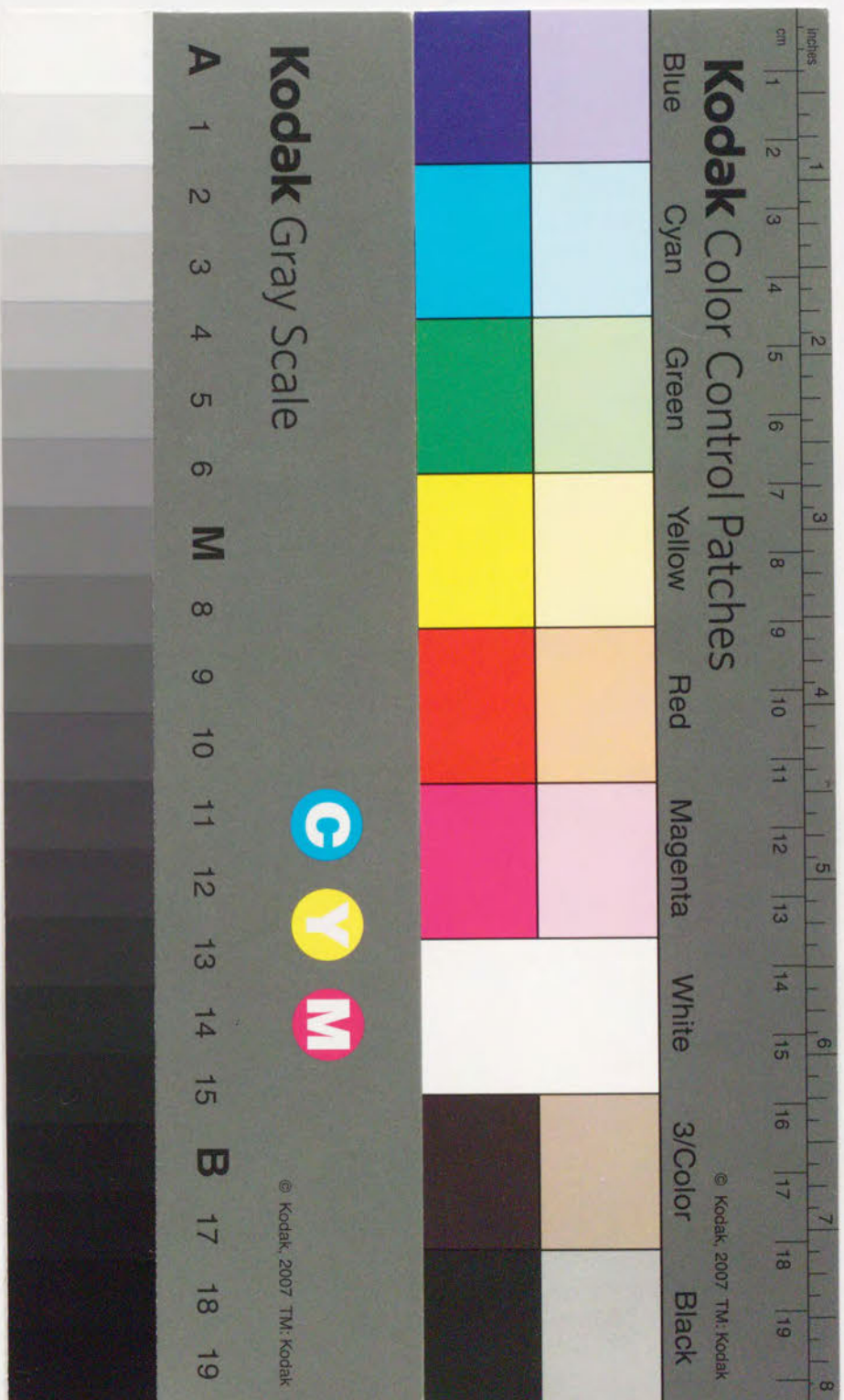




二十四孝記

林家寫本



二十四孝

虞舜ハ野人の子也歴山に耕せりいとけなき時
母にをくれ継母かばましく父かたくなに弟お
これり舜田に往て耕し給ふば象来てたがふ
芸給ふは鳥とだりて芸る誠孝天地とくにか
鬼神を感せしと帝堯きこし召て賓客の礼を以
て九男の沛子に馳走を命し女御子娥皇女英を
とだして舜の婦妻と給ひつゝめに天下をゆづ
り給ふ

大舜力を勞し心を尽して仕へ給ふ共父母共

に悦びず田に行不孝の罪を天に仰てなげき
給つり内外のつとも形氣の數に過るを以て
天象鳥に命して其旁にかはらむ父母弟力
を合せて救さむとすさけずおちいらす出入
神のことし帝堯聞しめして聖徳なるを
知給ふ始に賓客とし中比摂政を命し終に宝位
をさづけ給ふ

漢の文帝ハ高祖第の子に諸侯に封せられて代
王と号す諸臣其仁賢を知てむかひて帝位を
つゝ生母ハ高祖の側室そくしやう之文帝天下を知給て後

薄太后とす帝母に事て至孝に薄太后病る事三
年帝安を忘れず帯をとめす祿むりを忘れそい
ぬることせざ湯藥みつからるゝんみされはす
めす久しとおこにらす仁孝天下に聞ふ

漢朝ハ高祖にはじむといつとも四百年の基
本ハ文帝の孝に根ざせり。此かた日とて生
の支考ハ生との至實に宇宙の理よりせすと云となし天地生との徳これを受て性
命とす万物皆しかり唯人は五行の精氣を得
て明德あり万物にすぐれたる処に明德の感
通孝より先なるをれし

周の曾子名ハ参^{しん}字ハ子輿^{あきか}大賢之孔門道統の宗
に親^しはくつて至孝にあり時山林に入て薪を
とる家客来り母参を思ふて指をうむ曾子
たちも心^{こころ}曾子に母の戒を求るを^し知て
いそぎ^{いそぎ}帰^{かへ}りて其故を問母の云急客より吾ゆび
をうむ^{うむ}なりとす

人天地の中居て一氣流通す故に寒暑身に
應^{おこ}る唯^{ただ}煩^{わづら}熱^{あつ}の人寒をうむれ瘧疾^{マラリア}の人暑を不
知私欲の一体を^しあづかること熱病^{ネツビョウ}瘧疾^{マラリア}の寒
暑を通^{とお}ぎ^ぎる^る況^{いは}や親子の骨肉をうけ氣

をつゝ秘^ひて一^い身^{しん}の情身^{じやうしん}に切^きに此故に母ゆび
をうめ^{うめ}子^この心^{こころ}たちも痛^{いた}り母子呼吸相
通^{とお}ず孝子の情至^{いた}り

周の関子名ハ損^{しん}字ハ子騫^{けん}賢人にもやく母を
うめたり父後妻をめとめて二子を生れ実子の
衣服^{いふく}は綿^{わた}をい^いそ^そろ^ろに損^{しん}ハ芦^{あし}の
花^{はな}をう^うに^にあ^あつ^つて^てま^まに^に若^わ年^{ねん}寒^{かん}はく^くし^し又
車^{くるま}をむ^むし^しむ^むる^るよ^よお^おほ^ほ一^いを^を索^{さく}を^をお^おと^とり^り父^{ちち}そ
の身^みのう^うけ^ける^る故^{ゆゑ}を察^{さつ}して継母を出さへと
い^い損^{しん}これと聞^きて哀^{かな}て云母^{はは}い^いも^もは^は我^{われ}ひ^ひと^とま^まさ

一むくふんいもふじも三子共よよ里処ありと
一んと継母聞て悔改む

芦の穂と綿とすゝめ貧者の服に成人の者ハ
心を用ゝ寒と寒く盡し幼少の人ハ甚寒とた
えろく一丈已まりくよ者の悪行やくも決所
を失ふハ九情の悦に関子塞く終を恨む継
母去ハ二弟のさむうんと成思ひて父のい
くまをなむむ終に継母の衣を變て慈母と
す其孝れ至りしうとれと知もまた大に孔
門三千の中めて顔子関子と稱せられし事尤

周の仲由字ハ子路孔門の高弟に家貧して常の
産あり藜藿^{しつ}れ食飯食を親あるが故よ古卿と不
出百里の外ハ米を負てありいれと里父母の養
と親没して後南の方楚國よはくふ従車百乘
あり粟を積事萬鍾^{まんしゅう}に稠^{ちゆう}と重て産に賜^{みづ}をばし福
て食をあげて云親のうめよ米を負兼飯を食
ふと思へといふれをい

子路ハ勇心強力の人ハ貧賤よ生れて勇力ハ
る者ハ多ハその強を用るもろく無道あるも
の之をくも子路ハ其力や父母の孝養に用

有りたゞ力ありてあはれ人なる天質の得たる
所ありて人を欲するめは不用して忠孝の
事に用ひあはれ天下に不治の平の成る子路
のたとふ万歳此師とす

漢乃董永の家ももて貧し父死して葬る物
なし富家は身を賣て錢を借り葬礼をいれめ
りて主家にゆきやりてあはれ人とて途中
に一婦人逢ふて永の妻とてとひて
ともな其家にいなれり紗羅を織て丈を累て
一月小三百疋こく金に錢をつるはふと及ぶ

主家おとろあてゆき帰り時にもめ相逢
所も至る婦人永と辞して去

生る時も身のいふ処全に親に奉じて妻
子に死する時も身は一生を親になけ
うちて葬をあてり死生共小我身は有るは
て親の物とて至誠天小感は神女来て其身を
つぎやひてこれ艱をまぬるは神明
不測の理仙姫と夫婦する事古今董永一人
の刺子生質篤孝と父母ととも眼病あり鹿
の乳を得て食ふ事と福なり誠を得る

物に然共、水を得て父母の眼疾に癒えし得ず
はつゞきくも、然る所にて鹿の皮を衣て深
山は行鹿のむしり入て、鹿乳を得て親の供を獵
者鹿と思ひて、子起るとその中つを告
鹿の皮衣て鹿群ふまゝも、人々遠く望て
ひやもるとも鹿近しく何とまがらんや、未
だ孝感の至神を動じ、此故に鹿もさけむ
して乳をひふ至誠得くも、まゝと分別なき
小知のおもはるる処に

後漢の江革（江革）といふある時父を失ふひと母と

相依り長するふ及てまゝに孝行也、乳ふ違ひ母
を負て難きの途中盜賊多し革をおびやか
し、老母を去人といひ老母何とを告ぐ、盜賊と
いつても殺す志のいざしてやとせり、下劫（下劫）と云
所まゝつりおとり母子一物なり人の為は日用
をとらえて母を養ひ得る所は物皆母の衣食と
思ふと私用か

江革身の難を忘るゝ母のまゝ所あると
然る所にて母をそれんとやあがり慈母
の子然ふとこれにして全骸の精神赤子に

るが正親の子と思ふ。和應ある人皆つ
と親を以てよく子に親を以てふくむ敵應
ある故に孩提の思ふ報ずる者多くは

後漢の陸績字公紀年六歳の時九江の袁術は
見ゆ袁術橘を出して兒の前よく績橘二枚を
懷中を歸る及て拜する時地よりおちぬ袁術云
陸郎賓客と成てく物をつとめよするやと
績ひきまつて答ふ我母乃好む物を討て歸て
送くんと術大に奇なると云

六歳の兒三つ々食するを忘る母の性

の愛する事思ふからぬ。ゆゑはわが
むらゝ心ありて地は落ぬ貴人といふとい
てとも心は恥ぢぬ故に赤面は及ぶに至
誠大人と感ずる天性教をもつす礼を失す
るなり。あれども礼の本存なり

唐の崔山南の父の母唐夫人姑よくつゝ至孝
に姑は長孫夫人に年高して齒なく唐夫人毎日
髪をかく身衣きく之堂に升りて其姑に乳を
飲ましむ姑粒食せしむ数年かきとも堅固に
一日長孫夫人終命の病あり長幼よくつする

時々云言葉に乃づこよめの恩を報するをれ
た子孫の婦も人新婦の孝敬れとくあんと
と成願ふも

老大の姑は乳を飲め姑もまじ辞を以て
よめの乳を飲事常の人情を以てそれと共に
心もおとせし事唐夫人姑の老衰をこ
るを児のこく常は食を食しつこよめ見え至
誠は乳を飲め姑も其仁孝を感じて辞を以
老てふこび児とれ言ハ此姑婦もとし
まるとつこも可也凡情の及まん所をいふ

晋の吳猛年八歳親ははくして純孝と家貧し々
れも夏の夜とつても蚊をふとくべし帷帳れ
し夜蚊おかく肌膚おけりまもて膏血を噴吳猛
親のくしとくい給てこれと不驅已をくし
に去て親の身おけりまもて恐まて也
よれ常の人を親の旁はく事だに中心悦
てなり者ハまけにほと見てつこふとよし
と蚊の身をもすハ慈母の愛と云ともあつ
もふとてあつて我身はつめて親の所
ふゆりめとくしとくハ歳ハもめて小学

ふ入といへども父母兄長は事るに容儀を習
乃たたとて書を讀むいふに義理は通るつら
らに天性の天明教をまひさるれば良知良能吳
猛はあまて知至し

晋の王祥字は休徵もやく母を失つり繼母朱氏
慈しむに父乃前より祥が不孝をいひて諸をくび
るふれりこれよりあまて愛を父より失ひ天性の
思はるむより母生奠は食をん事哉思ふ時に天
寒して氷あつし求るなまをれ祥衣をぬぎ
氷に卧す氷はあまちとけて双鯉躍り出とるを

くりて母は供す朱氏の思を慰て祥が心もま
た安

嚴寒の厚き氷へ人ふいてづれ落つて衣を
ぬげ身まづこどもぬ氷はふきとる何ぞ解
つと氷をのつと解て鯉出至誠天地を動に
孝感のつとに所也今も至て河水は上一片氷
小卧すのくち生じと晋の王祥天下一人何
り如此乃孝子とくじ繼母不孝は事と何ぞと
諺すれも父といへどもこれに信を信む君子乃諺
を恐る也曾子其賢と母の信あるも三に

ひすれどおどろく後人何と思ふや

漢乃郭巨ハ貧者ニ三歳孩笑の児あり巨ハ母此
孫を愛して三つかくれ食をつらふ郭巨妻
ハ告て云貧乏あれば母ハ供さる事思ふよりか
も其子又母の食を減す此子と埋人とは老く
とて坑と堀と三尺に及て黄金一釜を得り
上ふ記して云天賜郭巨と奉行取事何れと民
奪を成得

祖父母の孫を愛して食ハワラハ常此事也
堂いてい凡心ハ幼ある時ハ父母成るに長

してハ妻子を愛に父母と思ふ事日こにうす
しかるも郭巨ハ親の養ハ害ある為ニ三
歳乃児を土に埋んとし幼少れ時父母と志し
ひて天下ふくづき物なまの心を不失妻又
同心同徳ヤとそむく天下此夫婦乃ち他
故ハ天も古今又なまののけり釜ハ量れ
名六斗四升也

晋の楊香年十四歳乃時父ハ志しひて田行
父の豊粟を獲む香ハこれをとおし常に力ハ応し
て父の身を助く時ハ虎出来く父を取て曳去楊

香身幼弱より又手に鉄器ありといへども父の事を知らず身は事と不知おどけむひすこゝ双手より虎の頭を搦る虎もおほつて豊となりて香をとりて去父子共小害をまぬれり

楊香三つり此よき事哉とてされども虎も勇猛をもちて去孝感天地神明を動かす今武勇のやまれ人といへども或は勇力をもち或は利刀弓矢をもち或は知謀をもち或は身方をもちをもち也楊香はすづ

孝のむつと事つと水至愛ふ出ると大勇也
仁者ハ必勇なりとまを成る

宋の朱寿昌ハ妾の子ハ父の正室を母とて七歳の時正室寿昌の母を他方より出し嫁に相不知と五十年也神宗帝の時ハ官祿をすて秦の地に入りて生母劉氏を尋ね母をいびき不帰とちふ終ハ逢ふと得たり時ハ母の年七十餘也

朱壽昌ハ我朝のいふへなハ公家れ正武家の代ハハ本れりといふは同じ家人をいふなりハつねくや万さることハ人ハか

さつ々官禄を去てさつ々ぬる此至情世人是
とくさつとく

南齊の庾黔婁はさつ々て爵陵を治む令と成てい
まひ十日なつさつ々父の病を祭する此日時俄に
心おとろふ身汗をさつ々官すてさつ々やさ
家へ歸り醫の云病の輕重をさつ々と思ふ糞
を嘗て苦み可也黔婁これをさつ々て甜し心をれ
さつ々憂て身を以てくさつ々ん事をいぬる父終に
死さる

遠方よりて病を告る者いまいづさつ々さるふ

もやふ父の病の祭するを知く奉行職を辞し
官禄をさつ々事やふれさつ々アさつ々の如く
かしてすさやかふ古郷へ歸れり糞をさつ々死
りさつ々んと願ふ孝心の至り人情のさつ
いささ処也

周の老萊子ハ至孝れ聞つあり二親ハ奉養する
事其甘美をさつ々む行年七十歳よりて老さる事
をいささ父母の在がさめ也家ハ居る時ハ身ハ
五色のされやう成衣を着嬰児のたつむれを
親のくさつ々なをさつ々時さつ々つさつ々つ

まはるきふれて嬰兒の啼をある双親口をひく
いて笑ふ春風彩衣を動く喜色門内りたり
老萊子父母在時言不稱老乃礼を学ぶ乃こ
に何れ双親子の老を見て心感慨おこり
ん事哉思ふ此故に五色衣嬰兒の戯をなす
り是一日の狂言に非ず平生父母を志す事
三歳の時より異なり父母のこころ又孩提
のころより改む大躰の允情に親は向く貞
心恭敬の氣象有り妻子朋友はたれを
云りひと老萊子に常人より異なり父母は順

なる者なり

漢の蔡順幼少の時父を失ひて孤とれるに
母は事つゝ至孝の時王莽に乱は逢ぬ年又
凶荒を被る母は供給する物なし桑の葉を
煮て器をこしてこれを盛赤眉賊見く怪て其
故を問順が云黒き物に母は奉る赤きものハこ
つゝ食を賊其孝を何れに白米三斗牛蹄
一隻を與ふ

桑の葉の黒き物ハ味甘く赤き物ハ味酸し
り此れを物といふとも至味を母は供ず全

体の精神親の上よりてさつ々味好む
をわすれず此事よかぬ他常知賊と
いつても父母有り妻子有り孝慈より
も立ちし本心の発見亡き事故に其誠
を感有道の代に生れず不義をわする者
より中人の質に習ふと性より後人何そ
恐むらんや

後漢の黄香字ハ文強年九歳の時母を失ふ思慕
してやまぬ里人其孝を称し父ハ事て至孝に夏
天炎暑此夕ハ父乃枕をひくんと扇を涼ん

し冬月寒天の夜にハ身を以てふす祢の床に
くくむ其他のつとめを可知太守劉護奇なりと
して其孝を表す

九歳の童子躬勤苦を執て子なるの職を尽す
とを知教すれいふ処に非に母を念て父を
痛めり此日ふくむ得む親行てつ々孝
子ハ日頃愛に唯此孝事従容として礼より
る天質乃美也

漢の姜詩母ハ事て至孝に妻乃龐氏姑に奉ずる
こと恭謹に母好て江水を飲めり龐氏出く遠く

江中の水を汲く姑はすむ勤学哉とくく
しと頃後又魚乃膾を嗜めり姜詩常ふ生魚哉
求め膾は作る母も隣母を召て共ふ食に舎の
かゝるゝは忽甘泉出味江水は如く日耳双鯉躍
る

姜詩三つゝ母は孝なるものなり妻も
仁ふして誠なり此故によく夫の志は志をか
ひて姑は孝に夫婦家業を共にして衣食をふ
けは貧乏していと苦しき身は志は遠く
江水を汲生魚を求む母は嚴しめて心なふ者

たゞふし隣母までをよび三つゝしと里か
くみて子婦の労をとりて以夫婦共にい
とふ心かく母のこれと悦とに至誠天地
をうこく江水鯉魚屋のうたゝくに生に古
今此夫婦の事也

魏の王褒親は事して純孝に母存日雷声を怖る
すぐは没して山林の間は葬る雷声伐聞とに疾
風猛雨といへとも墓所は奔て拜跪し泣て告て
云褒とに何りおそく事なれと其心母と
死をりとせは父は司馬昭うと沈は殺さる後晋

天下を一統し王哀終身西に向て座を以て晋の臣
と爲る也

震ハ乾坤乃長男之春夏の時を得て声を發し
これを雷と爲人々雷声を聞て氣血流通し病
滯を消し万物ハ雷声より以て沉滯を散して
長盛を雷よく爲るはざる時ハ五穀豊年な
るは出氣作物を以て此理を知人々愛するを
以て怕る一は王偉元母り怕る一はさ
るの理をさるるを教ふるをさるるを
不可知孝心死生を隔てず

漢乃丁蘭幼少其時父母共失く孤に奉養する
事を得ず其父母の我を生じて幼少を思ひ
おもふを以て切也思慕の余り二親の像を
ざりこれより事々事生るが如し其妻久し
くこれをも以て針を以てその指をさせば血
れ出木像蘭を見く眼中涙るなり蘭其実を知て
妻を去

丁蘭懷哺養育の恩を報ゆる事を恨み二親
の木像を堂上に列し朝夕生る親乃奉養をか
せり木像を主として三つ終る家主の座小

おの蘭ハ木像なる事を忘れて生ふ事なり
とて妻ハ木を以てする故ハ此なるふれを
なす尤像ハ枯る木なれども蘭ハ孝行生る
にたぐふ故ハ生る人の應けり信の歸する
所ハ神あり

晋の孟宗字ハ恭武いふふれおちとて父とて
ぬて孤ハ母老て疾篤ハ冬月筆此の竹物を食を
んを願ふ人力此及つまらぬれも竹林ハ
往て竹を抱て泣孝天地を感ハ須臾に地裂て竹
れ子數莖出り持りて以り物となして

母に奉ず食ハおのりて疾愈

天乃物をなす春生ハ夏長ハ秋收め冬藏を冬
の閉藏の時ハ当りて盛夏四五月に筆を思ふ
ともいふ得て孟宗常ハ意ハ先づ此旨とこ
ひ親の願として志しつゝ云事あり筆の得
てふ得へりてをりてなれし無
心おして竹林ハゆく嚴寒ハ筆生ハ孝感の神
物良薬とれり神明不測の理也

宋の黄廷堅山谷と号し元祐中ハ太史の官とな
る性篤孝ハ身富貴なれども母ハ事て其誠を尽

なり毎夕母の溺器を洗い婢妾の事をいひ
なり栄顯を以て孝性と移さば

を被人卑賤仕事習者ハ士君子れ業となし
かゝし身富貴成人ハ小人のそご銭手づく
を以共ニなりぬ事をよくする者ハ徳ハ山
谷富貴ハく臣妾多といつても老母事て
まづ至情を尽す天性の徳ハく勉強乃
及とあらはひ

大舜ハ性命の父母ハ事つたり大孝とする
処ニ父母の舜を殺さんとする者ハ其本心

非ず象ハ殺し得たりと悦ぶものも後來のま
とむ舜の生ておつするを見て心ちおとろ
ふ君哉思ふといひハ過を文り悪哉拵ふ悪
人の常態ニ然りともいふ一點の灵明不亡
ハゆつ小兄を愛するの義を知るハ此故ハ舜
其灵所存を悦びたりなり自己一團の
天理のこゝろ一毫ハ私己なまがゆつ其
性命を父母と弟とて後來の姦惡を見ど
め給ふに悪哉かゝる善をあらざるの至也或
問聖人又ハ不格姦此意ハ舜身を脩め善を行

父母弟を董亟して心ふ恥しむるは其惡を
げしめざるもの哉云舜何ぞ心ありて父母
弟に惡をてゝ殺すをわづらひて董亟
して死なすは其惡性より激して化する事ありと
て父母弟に其惡を見とがめ給ふ心ハ少かれ
し董亟すると云ハ他より見る所の子たるに
孝を尽し兄との愛を尽し雞鳴ておぼて終
日善哉なり徳を養ひ身をおとすは父母弟に
其惡をとがめ給ふにきき給はされども是

を董亟して刑罰に落入の大惡をあるはめな
るはとつとよりある處の志なり也舜ハ此意
あるはつとより舜をてたゞしふとく
此心ありて舜とすふとくはむる陽明子
此郷は父子訟者なり陽明子これににきき
おしつて云舜ハ是世間大不孝乃子瞽瞍ハこ
れ大慈愛の父也舜ハつとく大不孝れ身と
思ふり故に能孝に瞽瞍ハつとく大慈愛に
して赤子より如此養育成長なりむ今我心
ふ不叶ハ不孝の子と思ひて後妻はこれ

ろつさるゝと云ふ不知此故一不慈なりと訟る
者父子手伐取泣く者又云人生の大病ハ一の
傲乃字之子として傲も不孝之臣として傲
も不忠之父として傲も不慈之君として
傲も不仁之友として傲も不信之いふし
への聖賢諸の好人の名譽をるゝ處ハたゞ
一の無我之我なりと則傲之我なりと謙
之謙ハ万善其基百福乃歸する處之傲リハ衆
惡の魁禍災の源之舜の大孝大知一の無我よ
り大徳をるゝ者之問孝經云父有爭子則身

不陷於不義如此なる時ハ非なりは是をるゝ
これとこれといふと云ふ其を不見不格
といひん云惡をかくして善法ありと云ふた
給もこれ共無心自然の争之今もよく相叶
くる父子兄弟ハ常のことと云ふれりよくんそ
れをありと云ふ人の相談あり各の意見多し和
すれもそのよむにありと云ふ也師弟朋友君臣
皆志くりと云ふ事多しよと云ふ其和をありと云
ひよ非と云ふ事を知也父母弟ハ不和とい
へども舜ハ孩提乃時の和を不失父母弟乃郷

人びつともれぬ久刑罰におち入つてやう
成惡をなす時をいふ此人は非を一旦の心
得ちがひとあかして常れ人の　よりとい
ふとくうして、如此との給ふ成へし其我を
殺さんとすれども知給ふやうにはいふ何
の其惡にこれよまうしんあつれども父の本
心如此なるに我赤子孩提より養育せられて
成長するもの、今我を不悅者、我不孝とか
げふ給ひ終に頑嚚を化して常に歸する處に
董永王祥郭巨孟宗の篤孝のことよ天下各一

九

人之平人凡情の及ぶ處は非ず至誠天に感
して天下古今二つふ神應あり孝子此至情
を流くをる處よあてはつふぐふやうあし
あつれども父母よあては或は情欲の父母
より或は口体の父母を奉養するふ過む
故に天應も又神女をいふ厚氷をさかしの
魚をいふしめ金をたまひ寒箒を生し給の
に大舜よあては徳聖人より尊天子より富
四海をたまふ壽百有余歳子孫万に歳乃大福
をいふ明君の諸臣を下知しあふも如此一

事の奉公をぬさんずる者ハそのほゞの賞祿をうまし才徳衆にこころる者ハ高官大祿を命とくもてをなかりたてども百歩の外は射^やがてし舜の孝ハ黒星ハ當るが如し他の孝子ハ的ハ當るがてし 焉矢までもゆめさる者の及処ハ非にといへ共目あてとする者ハ黒星ハ故ハ後学れ人も大舜を師とすぬし其天よりたまふ処のあらハ成期するに至る天然性命の父母を奉養して後來の情欲を父母とをば其非ハ目よりくらべし

心よとくむへくは惡のどもよハおきくふむとくといへるも至るの苦心至誠を学ぶべし父母平人なりとも好人とれるぬし本より好人なりとも親より師よりなり問董永何を以てり口体を奉養を云喪祭ハ家の有無をわくふ西親の精神を諸乃むれふりこれのよ子れ一生を人やりことなさん何そ親の心ハ心よりや此一事を以てしれ先祖よりの田宅諸物ことく親の奉養をわくつゝいとなむ処

皆親に供じて妻子なす成ゆし親の口体乃そ
然る先祖の統を絶人としてハ親をも又不孝の
罪人となるあり親を養ふも家の有無を念じ
がひ妻子何まで共は孝を尽し葬も産をやぶ
らざるなどの分有ゆし董永おおめてハ天質
の美に神明を感動するの篤孝なれといふべ
あやうなし其時所位の勢後世よりハ知る
しのおれ人乃手本よくなまゝくじぶ事に世間
の人親の身と我身乃とく思ふ者何くハ大孝
の聞へ有ゆし董永ハ我身よりも親乃身を愛

せり妻子ハ人の欲する処にあられども親を
養ふふさけり有と思つてもいふにまじり人乃
や川こと成事ハ人のまじむ処にまじるを親
の葬の爲は一生休やりふなげうつゝか人
情のありけり事やして大力量の人といふ
とも及くも此処に其志をハ愛すゆし其事ハ
学びし問王祥が後來の情欲の父母は事
をもハいふ云継母祥を不孝と云て父は讒
を愛を父は失て天性の思ふまじり實は
れ不孝なるやゆゑ如此と思ふて継母の謬

を恨み繼母に孝行欲するふ何れにいつ
て孝行をいふ神にむといふとも祥は其非を
とがめばして生母よりいふ孝行の故に母
生巢を欲すれども此願を叶へざれば不孝なを
と思ひて其得るを分別を以て至誠これ
を求む其志乃篤実な美稱するは言葉なり神
明の灵感をいふを尤に其志に受すべく慕
し其事に習ひて嚴寒厚氷の時節の生巢
は富貴の人より夏秋よりいふかゝる事ハ
乏しく貧賤の者いふで俄に川沢を得るや

をあるに中二に海遠して海の生巢は天子
諸侯といふとも用ひ給ふに川沢は求む
のよし嚴寒は衣をいふ給ふに火を用ひ
さねを居るに衣をいふ給ふに厚氷は
臥て大病を奈す此身祖父母より傳へ
り親の口体の欲するは生れ本をそれ
る親は不孝の罪人他人に少慈心ある
者人よりいふまじと云事なり父母
の本心何を快く王祥は此を是非を
論じ後世の人これをよむをば後來

情欲の父母事るゝ流ずべし問郭巨ハハハ
ん云一家の至味哉調て親ヲすゝん夫婦ハ鹿
食と食するハ子の老に親ある孫を愛して食
哉と云ハハ哉これハ親の志ハ本心慈仁
乃矣見よと云てさつゝ口体の嗜欲とす
るゝものゝたゞ親の本心ハ順從して其志を
養ひ至味なりと云ふ廉飯を供ずつゝものゝ親の
独味のゝと云ふ子と教さば親の本心大に痛む
へし此事をよとすゝと云ふに云ふ被とも
全骸の精神親を愛敬するゝと云ふに云ふ已とす

る妻又丈夫の心ハ順從してさむくば天下古今
衆人の及ぶる処ハ道理とある事ハ學問ハ
よる時を易し郭巨が篤孝ハ老師大儒といへ
とも其十ハ一を得ともくゝ神明の灵感ハ
其至誠純孝の心ハ云ふ事ハ云ふ學者も
又其跡を学ばず郭巨の親あると云ふ不知乃
孝と云ふ初るふ事ハ孟宗ハ云冬月ハ
生笋ハ天子大樹といふとも得て不能雪中ハ
牡丹の花をみると云ふともいふ事ハ云
も時なりと云ふ物なりと食すゝと云ふ無病の

人なまとも慎む況や病人をや此願ひ道
理よきむより性命の本心よひに舜なをも
求給ふ其時よひに求むてに
といひまとも食すつゝまは道理の
べ給ふ孟宗平日其家よ得る物をも親
ふ奉し子弟のいづく成る人物を
も求出して供するも其まじく常とまを筆
をも願く成る時なまの物ハ毒氣の
まといてもこれハ孝感の神物なれハ良薬
と成て病よくなり至誠神を感する道理なれ

も平生も人力の及くま事共孟宗の誠よ
まて不意よ得るもの神助有へ至誠無心の
孝よて天地を動く鬼神を感ぜしむるか
どの事なれハ孟宗よ在てハ是非を論すべ
しに其跡を学ふ時も性命父母失く情欲
事なれやまに事と云のま孝子と
ハ云づくて君子とはつづきまの
有り君子なまこれ孝子も天下國家を治へ
るに舜ハ父母弟大悪人なる故に孝子の
名有り灵感有り此に舜の父母を董永王祥郭

臣孟宗の父母のをくなくめハ孝子の聞へ
もなく灵感も不可有君子の道德ふして孝無
事々ゆへなる他の聖賢り孝子のきことくわふ
所なり問いゝかるとり孝行の通用とす
云其位に其貧乏應して家業を失ふに子孫を
不亡子の身善人と成て父母の心を安ずるを
通用とすゆ孝經の五等は皆さひも也ハ
学など記さる孝行ハをあらう上古の代の
事ニ末代は通しゝ日本はワるるを
いふとあれも時勢人情大よりなれりなる

こゝれ上古ハ上質素ニ下ゆくかこゝハ男
女とも人のやりと成て出る者すゝか
これ故ニ子と婦と父母ニつゝふつゝより外
人なし世のあゝも無始より此ゝ如此も
のと思つゝ法と免てあるも非だ後世の上
おごる下るなり故ニ親子兄弟離散して
男女共ニ人乃やいことある者多し父母共ニ
分々相應ニ奴婢をつゝひて子婦をつゝ
此習久しき常とあれども人皆知此れと思へ
り今俄ニ婢妾を去るをけて子婦をつゝ

めんとするとも人情の習よて父母子婦共
安んずへく又婢妾なほ賤男賤女ハミつ
その多きれも衣食たゞに昼夜の家業せ
しく勞役すれも父母よつゝつよいとも
なほ二三人乃男女何れも其業のつと
められも私用よつゝひざしたる朝夕の
心術孝慈の本を不失て一家和睦父母順
あれば今乃世の至孝成て前漢の文帝宋の
代の山谷こゝより天質の美と孝行の一事よを
ぬてハ生知安行なりつと成てなほありあ

を天子の身として三つゝ母よつゝ富貴
して婢妾れ事を手づゝなほり此人づゝに
久の正といひて下つゝれ者のおと
れをけまふぬし不実にして跡残なほ
孝子れ狂言とならんとも恐る至善を期して
其為よふづゝ



